

1. 事業の概要 (Plan)

○ 新規 ● 継続

事務事業	コード	20351301	名称	ごみ・危険物等の収集	担当所属	環境課
					氏名	課長 中山 明
総合計画での位置づけ	政策	00000002	ひと、まち、自然が調和する、美しい定住のまちづくり	会計	一般会計	
	施策	00000001	3R (ごみの発生抑制や再使用、再生利用) の取り組み推進によるごみの減量化	款	衛生費	
根拠法令・要綱等			廃棄物の処理及び清掃に関する法律、村上市廃棄物の減量化及	項	清掃費	
対象 (誰を、何を、どこを)			市民からごみステーションに排出される一般廃棄物	目	塵芥処理費	
手段 (どのような方法で)			分別の徹底により適正な収集運搬業務の実施	記入者:	生活環境室 鴻島 雅彦	
意図 (対象をどのようにしたいか)			3R (リデュース、リユース、リサイクル) を推進し、ごみの減量化を図る			
関連事業			ごみカレンダー及びごみの分け方・出し方 (冊子) の全戸配布、生ごみ自家処理用機器設置補助金、環境フェスタの開催			
事業の概要			家庭ごみについては、業務委託により「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「資源ごみ」「有害ごみ」に分別し収集。			

2. 事業実施実績と実施見込み (Do)

活動指標	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	ごみの収集量 (委託)	t	目標	16,405	目標	16,214	目標	16,025	目標	15,838	目標	15,653
			事中	0	事中	8,418	事中	7,895	事中	-	事中	-
			実績	16,095	実績	15,319	見込	15,790	見込	-	見込	-
資源ごみの回収量 (直接資源化)	t	目標	4,156	目標	4,229	目標	4,300	目標	4,347	目標	4,415	
			事中	0	事中	1,602	事中	1,716	事中	-	事中	-
			実績	3,145	実績	3,506	見込	3,432	見込	-	見込	-
			目標	0	目標	0	目標	0	目標	0	目標	0
			事中	0	事中	0	事中	0	事中	-	事中	-
			実績	0	実績	0	見込	0	見込	-	見込	-

成果指標	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	ごみの排出量	t	目標	24,282	目標	23,824	目標	23,408	目標	22,954	目標	22,512
			事中	0	事中	13,377	事中	13,397	事中	-	事中	-
			実績	26,175	実績	25,265	見込	26,794	見込	-	見込	-
指標設定の考え方	「村上市一般廃棄物処理基本計画」による											
リサイクル率	%	目標	25	目標	26	目標	27	目標	27	目標	28	
			事中	0	事中	21	事中	22	事中	-	事中	-
			実績	21	実績	22	見込	22	見込	-	見込	-
指標設定の考え方	「村上市一般廃棄物処理基本計画」による											
			目標	0	目標	0	目標	0	目標	0	目標	0
			事中	0	事中	0	事中	0	事中	-	事中	-
			実績	0	実績	0	見込	0	見込	-	見込	-

数値で表せない成果 (見込)

事業コスト	年度	平成27年度 (決算額)	平成28年度 (決算額)	平成29年度 (当初額)	平成29年度 (見込額)	平成30年度 (計画額)	平成31年度 (計画額)
	直接事業費 a	(千円)	260,805	260,951	261,582	260,811	260,811
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0	0
	その他	75,437	75,452	75,763	75,763	75,763	75,763
	一般財源	185,368	185,499	185,819	185,048	185,048	185,048
(主な費用)	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料	ごみ・危険物等収集委託料
人件費	人工 (人/年)	1.100人	1.100人	1.100人	1.100人	1.100人	1.100人
	金額 b	8,140	8,140	8,115	8,115	8,115	8,115
総コスト (atb) c		268,945	269,091	269,697	268,926	268,926	268,926
	市民一人当たりの額 (c/人口)	(円) 4,186,110	(円) 4,258,106	(円) 4,334,207	(円) 4,321,816	(円) 4,321,816	(円) 4,321,816

3. 事業の評価 (Check)

①前年度事後評価

評価期間：平成28年 4月 1日～平成29年 3月 31日

視 点		評価項目		説 明
妥当性	A	自治体関与の妥当性	3 妥当である	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、市は一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう運搬及び処分しなければならない。
		目的の妥当性	3 妥当である	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、市は一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう運搬及び処分しなければならない。
		対象(受益者)の妥当性	3 妥当である	市内から排出される一般廃棄物が対象であり妥当。
有効性	B	目標(改善)達成度	1 達成できない	リサイクル率の向上に向け取り組み、昨年度に比較し向上はしているが目標を達成できていない。
		類似事業の存在	3 存在しない	法により市が実施する事業であり、類似事業はない。
		上位施策への貢献度	3 大いに貢献している	3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、ごみの減量化を図ることは、環境にやさしいまちづくりに寄与している。
効率性	A	コスト効率	3 適正である(削減の余地はない)	環境保全の重要性や公共性から業務の着実な履行を重視している。
		実施主体の適正性	3 適正である	業務効率を図るため一般廃棄物収集運搬処理業者に委託しており適正である。
		負担割合の適正性	3 適正である	ごみの排出量に応じて指定袋を指定袋を購入する必要があり妥当である。
総合評価	B	説明	村上市一般廃棄物処理基本計画の目標値の達成は難しいが、ゴミの排出量は減少傾向にある。市民に分別収集が浸透し「環境にやさしいまちづくり」「ゴミの減量化」が図られている。	

②今年度事中評価

評価期間：平成29年 4月 1日～平成29年 9月 30日

視 点		評価項目		説 明
妥当性	A	自治体関与の妥当性	3 妥当である	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、市は一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう運搬及び処分しなければならないため。
		目的の妥当性	3 妥当である	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、市は一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう運搬及び処分しなければならないため。
		対象(受益者)の妥当性	3 妥当である	市内から排出される一般廃棄物が対象であり、妥当である。
有効性	B	目標(改善)達成度	1 達成できない	ごみの排出量、リサイクル率ともに目標を達成できなかった。分別の徹底により3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、資源ごみの回収量の増、リサイクル率の向上を図る
		類似事業の存在	3 存在しない	法により市が実施する事業で、類似事業はない。
		上位施策への貢献度	3 大いに貢献している	3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、資源ごみの減量化を図ることにより、環境にやさしいまちづくりに寄与している。
効率性	A	コスト効率	3 適正である(削減の余地はない)	委託料は、収集運搬に係る人件費及び車両経費である。
		実施主体の適正性	3 適正である	業務効率を図るため一般廃棄物収集業者者に委託しており適正である。
		負担割合の適正性	3 適正である	一般家庭のごみの排出量に応じてごみ指定袋を購入してもらっており、妥当である。

【事中評価各視点に対する改善の着眼点】

視 点		改 善 の 着 眼 点
妥当性	A	自治体関与、目的、対象の妥当性に問題なし
有効性	B	目標が達成できなくなる突発的要因があると思うが、多くは目標値の設定が甘い若しくは活動の結果が実を結んでいないと考える
効率性	A	コスト効率、実施主体、負担割合に問題なし
総合評価	B	課題 昨年度（平成27年度実績）までは大型スーパー等で回収している資源ごみの量の把握はできていなかったが、平成28年度実績からその量を把握しリサイクル率に反映しているが達成できていない。

【総合評価における今後の方向性の目安】

今 後 の 方 向 性		総合評価
① 拡大基調（有効性の観点からの改革）		C
② 生産性向上（有効性の観点からの改革）		B or C
③ 効率性向上（効率性の観点からの改革）		B
④ 協働化（効率性の観点からの改革）		C or B
⑤ 現状維持		A
⑥ 縮 小		C
⑦ 休廃止		D

成果の方向性	拡充		④	②	①
	維持		③	⑤	
	縮小		⑥		
	休廃止	⑦			
		皆減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

4. 今後の方向性 (Action)

事業の方向性	方 向 性	②生産性向上（コスト維持、成果拡大）
	昨年度改善提案内容	ごみの減量化、資源ごみの回収量の増については、分別収集の徹底、収集品目の拡大によりごみの減量に対する意識の向上もみられますが、さらに市報等により周知を行い市民の意識の向上を図ることが必要。
	上記実施状況	市報や、環境フェスタ、出前講座などでごみを減らすため、3RのPRを行った。また、ごみ処理場では直接持ち込む方へ搬入指導を行っている。
	改善提案 (短期的改善と長期的展望)	引き続き、市報や各種イベント等で3RのPRを行い、さらなる資源化に向けた取り組みを実施する。

5. 【総合評価】（行財政改革推進本部会議）

結 論	今後の方向性	
	<input type="checkbox"/> ①拡大基調(コスト拡大、成果拡充) <input checked="" type="checkbox"/> ②生産性向上(コスト維持、成果拡大) <input type="checkbox"/> ③効率性向上(コスト縮小、成果維持) <input type="checkbox"/> ④協働化(コスト縮小、成果拡大) <input type="checkbox"/> ⑤現状維持(コスト維持、成果維持) <input type="checkbox"/> ⑥縮小(コスト縮小、成果縮小) <input type="checkbox"/> ⑦休・廃止(コスト皆減、成果休廃止)	
意 見	一次評価のとおり	
コメ ント		